



Papanicolaou G
(1883-1962)

精巣腫瘍と卵巣腫瘍

「Common epithelial- 亡き後の上皮性腫瘍の表題」

名誉院長 西 田 敬

性腺原発の腫瘍で精巣に由来する上皮性腫瘍は存在しない。然るに、卵巣では原発腫瘍の大部分が上皮性腫瘍に分類される。前世紀、WHO(1973)の知恵袋が上皮性腫瘍群を強引にでも捏造し、これに、common epithelial tumorsと命名した。つまり、卵巣腫瘍の大部分は表層上皮から発生し、腺腫～腺癌の形態を示す事が信じられて来た。最近では如何か？

神話は崩れる。Changing caption for the epithelial tumors in the ovary. 大部分はimported disease (輸入癌)に置き換わった。輸出元は卵管をはじめとする müllerian duct の派生臓器 (müllerian derivatives)。BRCA carrier など卵巣癌乳癌発症の危険群に対しては、Angelina Effectを見よ、予防的な卵管・乳腺除去が妥当な措置と見做され始めたのも宣なる哉。

一昔前、女性なんざ男性の肋骨一本の成れの果てという女性蔑視も極まりという意見が、特にキリスト教社会で流布した事があるが、今時、こんな与太話を信じている輩は西洋にも居ない。子宮頸癌は子宮頸部の S-C junction より発生し、当該部の視診細胞診が早期発見に有効である事は今や世界的常識。かたや乳癌の発見法が依然として視診、触診、加えて薄ぼけた mammography 何ぞでは物も云えない。これに超音波診断を加えても子宮頸癌早期発見法との差異は如何ともし難い。

